

第3回富山県総合計画審議会

1 日時 令和7年9月4日（木）13:30～15:30

2 場所 ホテルグランテラス富山 4階 瑞雲

3 出席委員（五十音順）

麦野会長

荒井委員、大井山委員、大崎委員、大橋委員、加賀谷委員、片貝委員、小島委員、
佐伯委員、坂井委員、三宮委員、品川委員、大門委員、唐山委員、浜守委員、
前田委員、松田委員、宮田委員、村上綾子委員、村上満委員、村上美也子委員、
森川委員、山辺委員、横井委員、米山委員

（オンライン出席）林口委員、藤野委員

4 知事挨拶

【新田知事】

委員の皆様方には、大変御多用の中、お集まりいただきまして、ありがとうございます。
早いもので、3回目の審議会になります。どうかよろしくお願いします。

私は昨夜、おわらに行く機会がありまして、日付が変わる頃まで堪能してまいりました。
やはりこれは10年後にも、あるいはその先にもしっかりと残していく、磨いていく、そんな価値のあるお祭りだと、改めて認識をして戻ってまいりました。

さて、皆様に諮問をさせていただいております新たな総合計画ですが、前回の審議会で骨子案をまとめていただきました。その後、その骨子案を基に肉づけをして成案に近づけていくために、県議会議員の皆様、また市町村長の皆様、それから関係の様々な団体の皆様と意見交換を行いまして、12の政策分野を設定しておりますが、その分野ごとに現場が抱える課題や解決策などについて貴重な御意見をいただいております。

また、7月12日の富山市を皮切りに、未来共創セッションと称しまして、15の市町村の皆様にご意見を伺う、そしてこの骨子案にさらに肉付けをしていく、また、地域性もいろいろと考えさせていただく、そのような場を設けてきました。先日で15市町村を一巡しまして、今日はその内容も盛り込んだ形での素案をお示しさせていただきます。

セッションでは、参加者の皆様に10年後の富山をイメージしていただき、地元目線、県民目線、かつ、未来志向の様々な御意見をいただきました。例えば、自動運転やドローン、AI、ロボットを活用した、便利で豊かな生活が10年後には普通になっている、雄大な自然や美しい田園風景、地域の祭りの継承・発展、こどもが笑顔で夢を育める社会の実現など、本当に聞いている我々もワクワクするようなセッションとなりました。

本日は、こうした様々な幅広い御意見を反映した計画の素案について、皆様に御審議をいただきたいと思います。実効性があり、分かりやすい、そして県民のための計画となるように、どうか忌憚のない御意見をいただき、さらに磨き上げていただければと思います。どうかよろしくお願いいたします。

5 議事

(1) 関係団体等との意見交換会、未来共創セッション等で頂いたご意見の反映状況

【麦野会長】

今ほど知事からも話がありましたが、前回は5月14日に2回目の審議会を開催させていただいています。そして、今回は3回目ということでございまして、総合計画の素案を中心に皆さんに御意見をいただき、議論していただければと思っております。

それでは、次第に従いまして進めてまいります。まず、議事(1)について、関係団体等との意見交換会ですが、これは3月から政策分野ごとに計12回実施しております。次に、未来共創セッションですが、7月からこの2か月の間に、県下15市町村で実施してまいりました。私も何回か参加させていただきましたが、大変盛り上がりまして、大変いい会だったなと思います。このセッションでは、こうありたいという10年後の自分たちの未来について話していくのですが、皆さんだんだん楽しくなって、あまりネガティブな話は当然出てこないですし、まだまだ明るい未来が皆さんから聞こえてよかったなというのが感想であります。

また、市町村長や県議会議員との意見交換会と、いろいろなところで御意見をいただきながら本日に至ったわけでありまして。そういったものを合わせて、反映状況につきまして、事務局から説明をお願いしたいと思います。

【事務局】

事務局から資料1に沿って説明

【麦野会長】

今ほど事務局から、関係団体等との意見交換会や未来共創セッションで頂いたご意見等につきまして、その反映状況についての説明がありました。それにつきまして、もっと十分に反映すべきではないか、あるいは表現の仕方がよく分からないといったことを中心に、御意見をいただければと思います。

御意見のある方は挙手をお願いしたいと思います。

(以降、順次挙手により発言)

【大橋委員】

私は県建設業協会の会長の立場で出席しておりますけれども、同時に県の子育て支援・少子化対策県民会議の会長の立場でも出席しております。先般、8月18日の「こども、教育、文化・スポーツ」分野での関係団体との意見交換会に出席させていただきました。関係団体の方々から具体的な課題や改善提案が出され、私も審議会の委員として大変理解が深まりましたし、ぜひ取り入れていただきたいと思っておりましたところ、そうしたものがしっかりと今後の方向性の中に示されておりました。また、私も意見を出させていた、県外に出た若者が戻ってきて、特に女性が活躍できるような職場環境の整備、また、その後の子育て支援については非常に拡充されているが、その間の部分が少し弱いのではないかというような点もしっかりと反映されていてよかったと思っております。

ただ、県の主要な施策である「こどもまんなか社会の実現」に向かっていると思う県民の意識が2割程度しかないというのはゆゆしき事態であると思っていまして、様々な施策を、決して各部局の縦割りになることなく、シームレスで実施していくことがとても大事ではないかなと思っています。本当に多面的なサポートが必要だと思っていますので、ぜひこの点を再度よく見て、対応していただければと思っています。

それから、建設業協会の立場で申し上げますけれども、今、本当に気候が異常な状況になってきておりまして、災害の頻発化、激甚化というのは、本当に我々も日々感じているわけであります。同時に、八潮市の下水管の老朽化による陥没事故にもあるように、高度成長期に整備されたインフラが予想以上に老朽化して、こういった大きな災害にもなっているわけです。1回壊れたものを直すのと、予防的に対策をしていくのとでは、コストが圧倒的に違うわけです。壊れたものを直すというのはとてもお金がかかるわけですから、

計画的にしっかりと予防保全をしていかなければならないと思っています。

と言いつつも、公共建設投資額はここずっと横ばいでありまして、人件費の高騰や物価の上昇に鑑みますと、ここ5年ぐらいで、実質的な建設投資額は2割ぐらい減っているということになります。対応しなければならないニーズが高まっているのに、実質的な投資額が減っているということに対して、いま一度抜本的に考え方を変えて、しっかりと公共事業の予算確保に、県としても取り組んでいただきたいと思います。

一方で、我々建設業においての今最大の課題は、やはり担い手不足であります。これは建設業に限らず、特にエッセンシャルな業種のエッセンシャルワーカーの仕事に対する人材不足は極めて深刻であります。そういったエッセンシャルな、本当に必要不可欠な仕事になかなか就業につながっていない。これに対して、我々は当然業界を挙げて、新4Kと言われる給与、休日、希望、格好いいというものに対して取り組んでおりますけれども、まずは県内の県立学校における職業科、土木や建築の学科においては、「あなたが学んでいることは非常に社会にとって必要不可欠でやりがいのある、そして使命感のある仕事だ」ということを、しっかり教育していただきたいと思います。

また、職業科というのは、県が必要に応じてしっかりと整備しているのですが、そういったことは関係なく、どんどん企業側が採用しているというような実態もあります。県はこういう考え方の下に学科を整備していて、将来的にその卒業生にはこういった分野で活躍してもらわないと、持続可能な社会にはならないということを、企業側に向けて発信していただくということも大事になってくるのではないかなと感じているところであります。

今、様々な課題が本当に待ったなしの状態でもっと深刻になってきて、本当にこのままでは数年で、何かあったときに対応できなくなるのではないかという危機感を持っていますので、ぜひしっかりと取り組んでいただければと思います。

【片貝委員】

「文化・スポーツ」や「健康・福祉」を中心に拝見させていただきました。また、滑川市の未来共創セッションにも参加させていただきました。部活動の地域移行や、健康寿命というキーワードなどもしっかり入れていただいて、大変分かりやすくまとまっているのではないかと考えております。

資料1を見て、一つ引っかかったところがありまして、感覚的な問題なのですが、10ページの「文化・スポーツ」の「ふるさとへの愛着と誇りを持つ人が増えています」とい

うところで、１０年後に全ての県民が県内に自信を持って誇れるものがたくさんあると思
っているということを目指して、現在が１６％、５年後には８０％が目標になっています。
こどもたちの郷土愛がないと富山の未来はないのかなと思いますので、この目標を高く、
そこを目指すということが大事かと思っています。ただ、５年で８０％というのが、果た
して実効性があるのかなと思ひまして、５年で５０％、１０年で１００％というような見通
しを持って行うのであれば納得なのですが。

どのような質問をされたかということも、この数値に関係しているのではないかなと思
っております。やはり人によって、自慢できるものというのは違いますし、感覚的に意識
を変えるというのはかなり時間がかかるのではないかなと思っております。たくさんある
と思っているかと言われると、たくさんという言い方が少し具体性に欠けるといいますか、
たくさんはないけど１つ、２つはあるという方であれば、もう１００％に近いのではない
かと思ったりもしますので、この表し方をもう少し検討していただければいいのかなと思
いました。

【唐山委員】

先ほど目標の数値というお話がありましたが、個人的には高く設定してもいいのかなと
思っていて、できそうなところを目標にするのではなくて、高めに設定して、できなくて
もいいではないかと。一生懸命やっているのだということで、県民の皆さんに御理解いた
だければいいのかというのが私の意見です。

この素案についてはすごくよくまとまっているというのが私の印象で、その中の数値
目標についてですが、例えば関係人口や幸せ人口、目標値はありますけれども、例えば
１，０００万人など、ここの正確な把握の仕方というのも、今のうちに考えておくのが重要
ではないかなと思っています。目標値に対して、今、我々はどこにいるのかというのを正
確に知ることです。その方法が今あるのかないのか、これを議論に含めてもいいの
ではないかなと思っています。

もう一つは、この後県民の皆さんにパブリックコメントということで御意見をいただく
ことになると思いますが、カタカナ語が難しいところがあります。表現には少し気をつけ
ていただいて、高齢の皆さんとか、小中高校生など若い方に分かりやすい表現がいいの
かなと思っています。パブリックコメントは、できれば若い方にたくさん御意見いただくの
がいいと思いますので、それをどうやって実現するかというのは少し検討が必要かなと思

っています。

私も関係団体との意見交換会に何回か出席させていただいたのですが、そこでの意見を盛り込んでいただいているものもありまして、素案については非常にいいものができているなと思っています。

もう一つ、こういった県の政策を考える、ドライブしていく、進めていくというところで、富山県庁の皆さんのお力はすごく重要だと思っています。資料にもあったのですが、いかに優秀な県庁の職員の皆さんを増やしていくか、そもそも県庁の試験を受けていただけるかもとても大事だと思っていて、そのことも念頭に置きながら、優秀で県のことを一生懸命考えていただける人材を富山県庁にいかに受け入れることができるかというところも、少し考えてみてもいいかなと思っています。

例えば、一般に公務員の試験は、多分時期が民間に比べて遅いというのがあると思います。こういう理由で、民間のほうに進路を決めている人も中にはいるのではないかなと思っています。これは試験の話になってくるのですが、もし可能だったら、多分一部そういうのがあると思うのですが、前倒しで採用ということも含めて、優秀な方を取り込んでいくことが大事ではないかなと思っています。

【前田委員】

私からは、私の会社のコア事業であります医薬品、もう少し広く言うとヘルスケア事業をやっておりますので、10番の「産業・GX」、特に産業についてコメントさせていただければと思います。

医薬品産業1兆円を目指していた時代もあったと思うのですが、薬価の問題もあって、ずっと6,000億円程度で、ここ7、8年以上停滞しております。そもそも国内のマーケットはシュリンクしていますので、医薬品産業で富山県産業を成長させていくということは、現場にいて非常に難しいと感じています。その点、医薬品、それから介護、もしくは、例えば高岡の能作はもともと伝統工芸の会社でありましたけれども、医療機器を作っているらしいです。アトツギベンチャーというコメントも出ましたが、今30代、40代の経営者がどんどん世代交代している中で、新規事業をやらなければいけない、もしくは父親から新規をやりなさいと言われるけど、何をすればいいかわからないという相談が結構来ます。

そういうときに、富山県がウェルビーイング先進県として、日本においても非常にブラ

ンディングが成功している中、ウェルビーイングと非常に親和性の高いヘルスケア産業を医薬品産業からもう少し拡張して優遇していくような措置がすごく有益ではないかなと思います。というのは、ヘルスケア産業をやるなら富山県に進出してきて事業したほうがいいというような施策はすごくあるのではないかなと。それから、地元の企業が次の新規事業を考え、企業の業態をコンバージョンしていくときに、ヘルスケアというところに集約し、産業として集積していくことで、ヘルスケアの振興というよりも、次の富山の成長産業としてコアな事業になっていき、そこに人が集まってきて、企業が集まっていく。先ほど建設の話も出てきましたが、建設も含め、様々な民間投資が流入してくるのではないかなと思っています。

これは細かい話なのですが、サウナのことが書いてあって、新聞にも出ましたが、富山県の一部の方が富山のサウナをブランド化しようという話があります。私も今、北陸で唯一サウナシュランという称号を持っている施設を運営しておりまして、その立場から言いますと、皆さんお見知りおきいただければと思うのですが、やはり関係人口をつくる装置としてサウナは有効であります。JAPAN SAUNA-BU ALLIANCEというホームページを検索していただいたら、ここに244社の名立たる上場企業や中堅企業が入っていて、4万人の会員がいて、この方たちがネットワーキングし、様々な産業を生み出したり、ツーリズムを生み出しています。非常に今、世界的にも大きな産業になり、ニューヨークでもサウナはすごく大きな産業になっていて、日本式のサウナがニューヨークでものまねされて、すごい産業になっています。

ドイツではサウナは医療行為になっていますし、ヘルスケアの中にこのサウナというものを富山でブランディングしていくのは面白いかと思います。アパホテルが最初にサウナ専用のホテルを造ったのは、富山のアパホテルを大改装してサウナに持っていきまして、巨大な産業になっているということは認識したほうがいいかなと思っています。

【麦野会長】

何人かの方に御意見いただきましたが、次の議題もございますので、1番目の議事についての意見交換はここまでとさせていただきます。

素案、あるいはパブリックコメントについては、後ほどまたテーマを設けますので、今言い足りなかったことにつきましては、後ほどの議事において皆さんにまた御意見をいただきたいと思っています。

まず、第1番目のところは、いろいろな関係団体との意見交換会、あるいは未来共創セッションでの御意見は反映されていると理解しましたが、ただ、一部数値や目標に問題がございましたので、これについてはまた事務方で検討するという事にさせていただきたいと思います。

それでは、2番目の議事、「新たな総合計画の素案」に移りたいと思います。事務局から説明をお願いいたします。

(2) 新たな総合計画の素案

【事務局】

事務局から資料2に沿って説明

【麦野会長】

今ほど事務局から計画の素案といたしまして、先ほど御議論いただきました12の政策分野も含めた全体構成について説明がありました。ポイントはいくつかあったと思いますが、県民の皆さんになるべく分かりやすく示す、そして、全体構成をコンパクトにしたというのが1点目。2点目は、最重要課題である人口減少についてどう緩和するか、そしてどう適応していくのかということで、この2つに分けて説明をいただきました。

また、その実現に向けてウェルビーイング指標を活用して進行していくということも一つのポイントではなかったかと思います。

つきましては、このポイント等を中心に皆さんの御意見をいただきたいと思います。

では、先ほどの議事で御発言いただけなかった皆様から、ご意見をいただければと思いますが、いかがでしょうか。

(以降、順次挙手により発言)

【松田委員】

北陸経済連合会の立場と北陸電力の社長という立場で参加させていただいております。

今般、いろいろな関係団体のご意見や、県議会、市町村のお話を丁寧に聞いて、素案という形でまとめられたということで、事務局の方に感謝したいと思っています。非常に分かりやすくなっているなという感想を持っております。

さらに、最後に御説明のありました人口減少対策です。いろいろな施策をやりますけれ

ども、本当にほかの地域に比べて、人口減少は必ずしもすけれども、人口減少度合いがどれぐらい少ないのかというところが、最後の答え合わせになるのかなと思いますので、そういう意味でこういうくくりをされたのも非常に大事な視点だなと思っています。

人口減少対策の中で、アドバンスト・エッセンシャルワーカーというキーワードが出てきました。せっかく北陸は高校まで学業といいますか、学力テストも非常に高い方々がたくさんいらっしゃるにもかかわらず、外に出て行って戻ってこないことが大きな課題だと思います。素案の中にこれを解決する手段、目的はあるのですが、そのものの目標がないので、この方たちをどう留めるかというような目標もあっていいのではないかなと思っています。

また、インフラのところですが、能登半島地震も経験いたしました。富山県の西部にも非常に災害が起きたわけでありすけれども、インフラのハードのレジリエンス対策は非常に大事なのですが、あのとき感じたのはやはりソフトです。いろいろな方々との連携、これは極めて重要でありますので、資料に訓練という記載はありますが、平時のときにこそ、いろいろな意見交換をしていくことが非常に大事だと思います。

例えば避難所に電気を届けようとしたときに、電線が切れていますので、随分時間がかかるということで電源車を持っていったのですけれども、これは3時間で油が切れてしまいます。それで、24時間体制でドラム缶をずらっと並べて、事務方の人間が切れたら入れると、こういうことをやろうと思ったのですが、途中で、ドラム缶が4本だと消防法違反になるという話もありました。いろいろ手続をすればいいのですけれども、そういう問題があるということをお互い認識して、こういう場合はこういう手続でいいですよねということを平時のときにしっかりやっておくことが非常に大事だと思いますので、ソフトの面をあらかじめ平時のときにしっかりやっていくということも施策に入れていただきたいなと思っています。

また、産業の面であります。至るところに経済の循環という言葉を入れていただいております。私は前からそう言っておりまして、富山県で得た富は富山県で使って回していくことが極めて大事なのではないかなと思っていますし、仮に富山県でできなければ北陸3県で回すと。別に一国主義と言っているわけではないのですけれども、富がなかなか北陸に留まらずに流出するのは非常に残念な話でありますので、各産業におけるサーキュラーエコノミーはありますが、経済全体、あるいは人、物、文化、芸術全て、県内でこういう富をどう回していくかということも、施策のところに分かりやすく入れていただ

くと非常にありがたいかなと思っております。

最後でありますけれども、先ほど唐山委員がおっしゃったように、「幸せ人口1000万」というのはどういう定義なのでしょう。今何人なのかということ、私も聞いていて思いましたので、そういうことを明確にしていいただければと思います。

【品川委員】

先般、「まちづくり・交通」、「観光」の分野の意見交換会にも出席させていただきました。政策の柱として貫かれている「未来に向けた人づくり」と「新しい社会経済システムの構築」ということは、非常にすばらしい、いい論点だと思いますし、素案の53ページに参考とありますが、人口減少というのはもう避けられないものだとなれば、それを少しでも緩和していくこと、また、そういう社会にどう適応していくかというまとめ方は非常に共感しますし、現実的な取組みになっていくのではないかと拝見しました。

「まちづくり・交通」、「観光」の分野では、やはり「人づくり」というところが一番大切ではないかと思います。それは、まず担い手の確保という意味で、ドライバーを含めてどう確保していくか、また、県内外への情報発信ということもしっかり行っていく必要があると思います。

また、「まちづくり・交通」の分野で言えば、やはり素案の53ページにもありますが、公共交通の活性化と地域交通サービスや、全市町村に通っている鉄道線の有効活用、また、自動運転という話もありましたが、様々な新規モビリティサービスを導入し高度化していく必要があると考えます。また、「まちづくり」という意味では、意見交換会でも意見が出ておりましたが、中山間地域の振興ということも、「人づくり」も含めて進めていく必要があると思います。

また、「観光」の面においては、関係人口の創出という観点を含めて、いかに多くの方に来ていただけるか、今本当に千載一遇のチャンスが到来していると思いますし、昨日までおわらに行ってまいりましたが、多くの県内・県外客、インバウンドの方がお見えになっていて、このようなコンテンツをしっかりと充実させて、いろいろな祭り、イベント、「寿司といえば、富山」もそうですが、食も含めてコンテンツを充実させ、滞在時間をなるべく長くしていくことが重要ではないかと思います。また、インバウンド、高付加価値旅行者など、たくさん富山にお金を落としてくださる方々にしっかりと目を向けて、様々なチャンスに観光立県を改めて目指していく必要があるのではないかなと考えております。

いずれにしても、人材の育成、持続可能な地域交通サービスの維持・発展、そして観光の様々な施策ということに取り組んでいく必要があります、全て盛り込まれておりますので、ぜひこの方向でお願いしたいと思います。

【大門委員】

10年後の富山の将来像を描いていただいて、その中間点としての5年後の成果目標の姿が表れており、そのための課題も提示されているというのは非常に分かりやすい素案だと思っております。ただ一つ、5年後の成果目標の中の目標数値、何%という記載はあるのですけれども、その何%という目標数値を示された計算根拠、全部計算根拠を出してほしいということではなく、例えばこの数値はこういう計算でもって表しましたよということが分かれば、もっと丁寧かなと思っております。

そして、カーボンニュートラルの問題です。家庭や地域や会社の中で、全ての社会活動におきまして、富山県民全員がカーボンニュートラルに取り組んでいこうということが大切だと思います。現在の自然災害の激甚化や大型災害の原因になっておりますCO₂の発生量をどうやって低減していくかということを、そして地球の温暖化のスピードを緩やかにさせていくためには、我々富山県民一人一人が努力をしていかなければならないということ、もう少し強く訴えていただければと思っております。そのためには、例えば、何で家庭で不燃物のごみを仕分しなければいけないのかということも、お父さんお母さんがこどもに教えてあげれば、それが一つのカーボンニュートラルの入口になってくるかなと思っております。

また、健康寿命と平均寿命をできるだけ近づかせることをいろいろな施策で訴えられておりますけれども、やはり健康な高齢者を増やしていく、そして、できるだけ自立できる期間をもっと増やしていくことをやっていくのが我々の務めでないかなと思っております。

【浜守委員】

今、連合富山では長期的なスパンの運動方針をつくろうということで取り組んでいます。まさに10年後の富山県を考えるということです。キーワードとして、正しい時代感と新しい事業感を持つということを言っています。つまり、もっと経営的な視点を持って労働運動を進めていこうということでもあります。強い10年後の富山県を目指すということで、強い経済、強い企業、強いスポーツ、災害に強い、こういった「強い」というキーワード

で、労働運動をつくり上げております。

そうしたときに、最近私が思っているのは、最低賃金の議論がありました。富山県も目安プラス1円ということで、いよいよ1,000円を超えたということでもあります。これはこれとして私の立場では理解をしていますし、いいことだなと思っているのですが、全国的な議論の内容を見ていると、「どこどこの県が上がったから、私たちはそれよりも1円プラスしよう」や、「石川県には負けられない」、「富山県には負けられない」という本末転倒な議論で最低賃金が決められていることに対して、ものすごく違和感を持っております。

もともとこの最低賃金というのは、それぞれの県の特殊事情があって、富山はものづくり産業をはじめとしたしっかりとした会社がありますので、Bランクというランクでした。石川県は、観光業、サービス業が盛んです。そこに合わせた最低賃金があったのです。そういった過去の歴史もあって、それぞれの県で議論してきたにもかかわらず、全国的に負けられないという、企業や経済が弱くなっていくような議論をしております。こういった計画をやっていくときは県民一人一人が強くならなければいけないというときに、こういった最低賃金の議論はいかなものかと思っております。

少しまとめますと、そういったことも含めて、私たちもこういう計画をしっかりとやり遂げるために参画していきますので、どうかよろしくお願ひしたいということを一言言わせていただきました。

【村上（綾）委員】

先ほどから様々な委員の方の貴重な意見がございました。私自身も、関係団体との意見交換会や未来共創セッションに複数回参加をさせていただき、皆さんと共に10年後の富山を描く対話の場に参加いたしまして、非常に意義深い経験でした。その折に、昨年起きた地震や災害対応のことやいろいろな対策についての話が出ておりました。資料1の23ページ、防災のリーダーシップを取っていこうというところに、「多様性にも配慮し」というような部分をぜひ加えていただければよろしいかなと感じました。

また、防災人材の育成についても、こどもたちへの教育という部分もぜひ捉えていただきたいと思いました。実際に小中高校生に向けて防災講演を行わせていただいているのですけれども、こどもたちから自分たちの住む場所への理解を深め、「防災に対して自分ができることがないか？」というような主体的な意見が多くありました。そういったこどもたちの力をぜひ、防災やまちづくり、今後の富山県に結びつけていければよいのではないかと

なと思います。

防災について、先ほど松田委員はじめ、いろいろな方から御意見が出ましたけれども、気候変動をベースに災害が激甚化しているということで、こういった複雑化する社会課題に対しては、複合的な解決が求められると思っております。人口減に対して、関係人口が話題に上っておりますけれども、関係人口となってくださった方々に、安心・安全な富山県とっていただければ、そこに定着し、また、前田委員のお話にありました、ワクワクするようなヘルスケア産業や、スタートアップがあることで、関係人口から富山へ定着した県民となって、それを盛り上げていただけるのではないかなと思います。

そういう意味では、人と人とのつながりには、防災～安心安全なまちづくりが一つの要素になるのではと思いました。今回の素案についてはこれだけの様々な資料をベースに、非常に充実した内容に取りまとめていただいてありがたいと思っております。

【山辺委員】

今回、「スタートアップ」のところで、イントレプレナー、企業内起業という話も出てきて、そこはすごくいいなと思っております。前回の審議会の際にお話しさせていただいたのは、中小企業の経営者の方たちが今思い悩んでいることに人材不足があると。でも、ある程度お金を出せば、人材紹介のところから紹介してもらって採用できると。でも長く続かない。ある程度お金を出して人を採用して辞めてしまう。それは、人が採れない以上にダメージを受けているのだという話を聞いたということをお紹介したかと思います。そこから3か月たって、その経営者の方たちは少し変わってきてまして、アメリカで、新卒社員がやるようなことはAIにさせるということで、新卒の氷河期が始まったというのがSNS上で話題になっております。そういった情報を受けた経営者の方たちは、新卒を採らなくていい、業務にAIを使いたいということで、AIを使った業務のやり方を教えてほしいという問合せが、ここ1か月あたりすごく多いです。そのように中小企業の経営者のマインドがすごくスピード感を持って変わってきています。

今回策定していただいた素案は、すごくワクワクし、とてもいいものだと思うのですが、推進体制にスピード感を持って、変えるところは変える、変わらないこと、続けることは続けるという判断も随時進めていただいたらなと思います。

【藤野委員】

成長戦略会議の特別委員である安宅和人さんが、『風の谷』という希望』という本を出されました。1,000ページほどの分厚い本なのですが、今、非常に話題になっておりまして、知事もシンポジウムに参加されましたが、今大変な勢い、熱になっています。

1,000ページもあってなかなか読むのが大変なのですが、風の谷というのは、疎空間と言っているのですけれども、いわゆる密な空間でない中でどのようにすばらしい地域をつくっていくのかということに関する、100名の仲間との画期的なレポートになります。

富山県の事例も相当出していただいているところがあります。お読みになられている方も多いと思うのですが、ぜひここにおられる方には読んでいただいて、その中にテクノロジーの問題であったり、文化の問題であったり、また、人口減少と災害の激甚化の中でどうつくるのかということに関して、非常に分厚いデータと、それから様々な専門家の意見があります。

私は、一つの提案ですけれども、この「風の谷」を熱量高く、今推進しようとしているところがあるので、富山県としては、優秀で、かつ地域創生を何とかしたいという人たちをうまくつなげていく、これから富山県が成長していく、もしくは持続可能な地域として長く発展するためには、当然結集するだけではなくて、地域外の中でイケてる人を集めていくということも、とても重要なと思います。

風の谷プロジェクトの中に私たちも手を挙げて、優秀な人に議論に加わっていただく可能性があるというところがありますので、ぜひその熱やエネルギーをレバレッジすることができたらなと、最大限努力をしていこうと思っております。

【横井委員】

素案をいただいたときにまず思ったのは、これは富山と書いてあるが、富山県以外の主語でも全部通じるのではないかということ、つまり、石川県だったり鹿児島県だったりしても同じではないかということ。あるいは、12の政策分野についていろいろな方の意見を聞いた結果、話しているうちにだんだん嬉しくなってきた、悪くないではないかと。12の政策分野の中で、我々としてこうなってほしいという姿をずっとみんなで考えた結果、先々も悪くないではないかという、そういうビジョンが描けたのはすごくよかったかなと思いました。

そして、具体的な政策は何かと、少し自分で突っ込んで、じっと見ていました。最後に

大変感心したのが、素案の５３ページです。総合的に推進する人口減少対策、これのおかげで、最初に私が申し上げた、この作業をやった結果、百科辞典みたいな計画をつくって、それでできたからよかったね、１０年たったらもう何をやったかよく覚えてないというものに加担をする気はありませんと言ったのですが、この５３ページを見て、やはり富山県はすごいなと、心からそう思いました。

これだけ作業をやった結果、何をやるべきかというのが５３ページに端的に表れていますし、さきほど松田委員もおっしゃっておられたとおり、このページを見た瞬間、これは大変な労作だったなと思いました。これを見れば、我々がやるべきことというのは非常に具体的に明らかになっていますし、ぜひこれからお願いしたいのは、この中のローマ数字のⅠであり、Ⅱであり、この中ではやはり一番左上（１ 自分の生き方を主体的に選択できる“とやま”）がプライオリティが高いのかなという気がしますけれども、ぜひ今後は執行側においてプライオリティを決めていただいて、これを全部するというのはなかなか難しいですから、富山県のリソース、それから実行可能性も見た上で、具体的な政策をぜひつくってほしいと思います。

その中で、最後に申し上げたいのは、この会議に出席させていただいて、私が一番先々楽しみだと思ったのは、米山委員が取り組まれておられる、砺波の地域コミュニティが子育てを助け、それによって若いお母さんたちが子育てが楽になったとおっしゃっていて、実はこのエピソードが私を一番勇気づけたんですけど、今日もう一度伺ったら、今度は元気がなさそうなおじいさんを助けてあげると。つまり、コミュニティにおいて若いお母さんを助け、子育てを支援すると同時に、私も含めて、幸せなおじいさんもたくさんいるかもしれません、幸せなおばあさんもたくさんいるかもしれませんが、孤立しがちなおじいさんを何とか助けてくれるという、そういうようにおっしゃっていただきました。

何が言いたいかというと、富山はまだ間に合うんです。私は今、東京の駒沢というところに住んでいますけど、私も町内活動というのを一生懸命やっているのですが、町内活動とは何かというと、東京ではごみを捨てているだけです。子育てのためにとか、あるいは高齢者のためにという、そういうコミュニティをもう一度強化し、そして、それによって様々な社会課題に取り組んでいくというのは、もう恐らく東京ではなかなか難しいのではないかなと思います。そういうことは多分富山ではまだ可能だと思いますので、ぜひ米山委員がおっしゃっている地域コミュニティの活性化により、子育てや防災に取り組んでいくべきだと思います。

もう一つ見ていただきたいのは、素案の１２ページの人口動態の表なのですが、これからあと１０年ほどたって２０３５年、そのときには６５歳以上の人口が３６．２％。もう１０人のうち４人が６５歳以上というところでどうやって消防団をつくるのか、災害が起きたときにどうやって有効な避難対策ができるのかということを、やはり具体的に考えなくてはいけない。具体的に考えることが必要であって、このグラフというのは本当にいろいろな意味で、なかなか前向きな議論だけでは終わりませんけれども、こういう具体的な人口動態の中で我々がどういう社会をつくっていくかということを想像するに、非常に有益な表であったかなと思います。

最後に、富山県はやはり大したものだと思います。安心しました。今後とも具体的な政策に向けて、ぜひ提案いただきたいと思います。

【米山委員】

私は、砺波市の限界集落でまちづくりに関わっています。今回、全ての課題が私の住んでいる地域のことだなと感じていて、ある意味、人口減少した未来として先進地域だなと思っています。本当に先進地域と思ってすごく楽しんでいるのですが、素案は足りないところを網羅していて、これができたらすばらしいと思っています。

ただ、これからこの人口減少時代で、お金も人も減っていく中で、何かを特化することで、横井委員もおっしゃっていましたが、有機的に解決していくことが図として表れていたら面白いなと思っています。素案の５３ページの図がそうなのかなと思っているのですが、当事者は結構当事者のものしか見なくて、そこに対応するプランがないと優先されていないのではないかという気がして、自分には関係ないことになってしまうのが自分の村の現状なのですが、どこを優先すれば全てのプランにつながって一気に解決できるのかというのが、この５３ページで見えるのかなと思います。

ただ、この人口減少を緩和することはすごく大事なのですが、例えばこのことを自分の地域で話すと、半数が高齢者なので、関係ない人が半分ぐらいになってしまいます。ですので、自分の地域としての、個人的に重視していることだけなのですが、高齢者を含めて、村の人の得意なところを活かして自分事としていく人を増やすということと、移動を重視しなければいけないと思っています。自分の町を自分事としていくプレーヤー、富山県もですけど、増やしていくことがとても大事で、今の６０代から７０代以上の人はすごく自分事として動いてくださいます。防災訓練も、あの方たちがいなければ成り立ちま

せん。70代以上の方々のおかげで、安くておいしい野菜やお米が頂けていて、資源を維持してくれているのが60代以上の人たちだと思っています。若い人たちがそうやって学び合えると、お互いに楽しいと思って今取り組んでいます。

あと、移動は全ての世代に共通していて、大橋委員がおっしゃっていたように、インフラがこれから全部にお金をかけられない時代になってきて、特に中山間地域で人が少ないと、そのインフラを何億もかけて直すなんて多分現実的ではないので、インフラを、運ぶような何かネットワークができないかなと今考えています。

【麦野会長】

では、次の議事に移りたいと思います。3番目は「今後のスケジュール」であります。事務局から説明をお願いします。

（３）今後のスケジュール

【事務局】

事務局から資料3に沿って説明

【麦野会長】

今ほど事務局からパブリックコメントの実施も含めた、今後のスケジュールにつきまして説明がありました。

県民と共に考え、共に実現する、県民が主役の計画にするためには、県民になるべく分かりやすく周知することが大変大事であります。この県民への周知につきまして、皆様お気づきの点がございましたら御意見をいただきたいと思います。これまで議事で発言いただけなかった委員からお願いできれば大変ありがたいのですが、いかがでしょうか。

（以降、順次挙手により発言）

【宮田委員】

前回の審議会で、こども版や漫画などを使ったらいいのではないかと言っていたんですが、本当に自分事にしないと意味がないと思うので、こどもたちが、自分たちが富山をつくっていくのだと思えるような見せ方がすごく大事だと思います。

私は日本語学校をやっているのですが、日本語学校に来ている留学生も、富山に留学

して、もっと富山に住みたいと思えるような、外国の人にも分かるような総合計画になれば、彼らも自分事にできると思いますので、本当に大人だけではなく、こどもや外国の人にも分かりやすい見せ方をしていいただければとても嬉しいです。

【荒井委員】

周知の仕方なのですけれども、県議会との協力の中で主権者教育を行っておりまして、もともとが県議会を広報する冊子を作って、それぞれの高校に配った際に、配っただけでは誰も読まないだろうというのが原点でした。それで、若者の投票率を上げるということも目標にあったのですが、実際に県議会の方にそれぞれの学校に来ていただいて説明していただくことによって、ようやく生徒も自分事になると、そういうことを目の当たりにしてきております。

ですので、せっかくですので、分かりやすい冊子を作られた際には、ただ単に学校に配るだとか連絡するだけではなくて、時間がかかってもいいと思うのですけれども、やはり学校に来ていただいて直接生徒に語りかける機会などもあればいいのかなと思っております。

【村上（満）委員】

周知の件もそうなのですけれども、素案も含めまして少しお伝えをさせていただけたらと思っております。

福祉の視点から言いますと、優しい視点というのがとても大事なので、PRしたり周知したりする際だけではなく、例えば、先ほどの素案の14ページで言いますと、10年後には稼げる、選ばれる、描けると書いてあるのですが、そうであれば10年後はやはり住めるというほうがいいのかなと思って見ていました。5年後ぐらいですと、住みやすいとか、稼ぎやすいとか、選ばれやすいとか、描きやすいというようなところのイメージから入って、10年後には確実に住める、選ばれるなどというような流れで、そういった優しい視点がまず大事だなと思って聞いていたということが一つであります。

以前にも申し上げていたのですが、今は重層的な支援や多層的な支援がすごく求められているものですから、いろいろなところを掛け合わせながら、周知をするにしてもこれだけということではなくて、これとこれを組み合わせてどうだというようなことがとても大事だなと思って思いますし、そこにまた新たな視点・価値でというところで、先ほど荒井委

員がおっしゃられたように、高校や大学というようなところをうまく活用していただければいいのかなと思います。

こどもまんなか社会なものですから、まさにこどもの権利に関する条例を策定させていただいている有識者委員といたしましても、やはりこどもをまんなかに置くということを徹底的にやっていくということが何よりも大事なことはないかなということ。そこに人づくりと教育が関わってまいりますので、それがあつての様々な産業であったり、あるいは様々なまちづくりにつながっていくものと思っておりますので、そこをぶれさせずに、ぜひともこどもをまんなかに置いた施策を中心とする周知も徹底していただければありがたいなと思っております。

高等教育機関をどううまく使うか、私立大学が唯一になろうという状況の中で、やはり高等教育機関が一緒に力を合わせながら、若者を流出させない、ここが一番大事なところだろうと思っています。

ですので、官と私も含めた大学がいかにやっていくのかというところも、しっかりと協力をさせていただきたいなと思っております。

【佐伯委員】

先ほどから「こどもまんなか社会」に関するお話がいくつか出ていますが、私もその点をととてもありがたく思っております。こどもの権利に関する条例は、少数派である子育て世帯の様々な事情を知っていただくためにも、そしてこどもがよりのびのびと育っていきえるようにするためにも、大変意義のあるものだと思います。こうした条例を出していただけることに、心から感謝いたします。社会全体で、富山県全体でこどもを支えていくことで、県の活性化や、新しい時代に沿った価値観への移行もスムーズに進んでいくのではないかと感じています。

また、何よりもこどもたち自身に「大人は今こういうことを考えているのだよ」と伝えることが大切だと思います。今回の素案にはたくさんのイラストがあり、とても分かりやすくなっていると感じました。参考資料のグラフィックレコーディングも本当にすばらしく、その中に「ありがとう」という言葉がたくさん出てきていたことに感動しました。将来、自分が10年後の人たちから「ありがとう」と言われたい、そんなふうにかどもも大人も思えるような、前向きな資料になっていると思います。ぜひ、こどもたちにも見てもらえたらと願っています。

【坂井委員】

人口減少ということで、本当にそうだなと、一番大変な問題だなと思いながら聞いていました。一番の原因は若者が戻ってこない、戻ってこないから事業承継もできず、お父さんお母さんがやっておられる会社ももう廃業になる企業が多くあります。町内でもやっぱり男性の若者は少しいるけれども、ほとんど女性はいない。女性はもう都会に行くと戻ってきてくれないという問題が本当にあります。

私たち商工会女性部では、やはりこどもの頃から、ふるさとの味や、ふるさとのいいところを知ってもらおう、そしてサケがふるさとの川に戻ってくるように、いつかは地元に戻ってきてもらいたいということで地道に活動しています。昨年も保育園のこどもたちに大きなプールの中でアユのつかみ取りをしてもらって、それを塩焼きにして丸ごと食べてもらう、ゆずみそを使ったお料理を出して食べてもらう、庄川町なので温泉もありますので、保育園で足湯をもらうなど、そしてお母さんたちにもそのお料理や味を知ってもらうという講座をやっています。

そして今、ふるさとの昔話なども、紙芝居を作ってこどもたちに聞かせるということもやっています。また、地元にもすばらしい企業がたくさんありますので、中学生や高校1年生ぐらいまでの間に地元の企業を知ってもらうということにも取り組んでいきたいなと思っています。

【森川委員】

私も射水市で開催された未来共創セッションに参加させていただいたのですが、そのときグループで、この会をどうやって知ったかという話題になりました。その結果、地域おこしの活動を通じてこれを知ったという方や、教員で別の教員から教えてもらったという、人づてで知った方が多いなと思いました。ホームページやチラシを見て参加されたという方が少ないように感じまして、今回の総合計画の周知に関しましても、若者が見やすいように、いろいろな媒体を用いたり、小中高大学生でも、学習の時間を設けるなどして自分事にしていくのがとても重要だと思いました。

【麦野会長】

大変たくさんの意見が出てまとめることもできないものですから、少しだけ感想を言わ

させていただきますと、今回は、知事が最初にお話しされましたが、現行の総合計画の10年のうち7年目の途中だけれども、世の中が変わり過ぎているということで、今回の新しい計画をつくるということになったわけでありますが、今までの計画でも、10年計画の途中で計画をつくっているわけです。今回の新たな総合計画も、もしかしたらどんどん環境が変わっていったら、何年かしたときには時代に合わない状況になっている可能性も当然あるわけです。一生懸命こういうものをつくっているわけですが、それにこだわらず、そのときそのときの必要に求められることに対して、素直に、あるいは柔軟に、改定あるいは変更をしていただければと思います。

2番目は、やはりいろいろな人がいろいろな意見を持つのは当然でありますし、それが多様性ということなのですが、物事をつくるときはやはり一番芯のところをしっかりとしておかなければいけないということで、今回この計画の理念や2つの柱、あるいはその視点などをより強くPRしていただきたいと思います。ここがなければ、細かいことをどれだけ言ってもおかしいので。

なお、細かいところでは、いくつか目標の数値に、皆さん違和感のあるところもたくさんあったのではないかと思います。私が一番違和感があったのは、学校の先生の時間外を38時間から30時間にするという部分ですが、こんなことは民間では絶対あり得ません。30時間だったらいいのかという話に当然なるわけです。これは当然半分以上に、それからゼロにしなければいけないので、38時間がいいのか、35時間がいいのかと議論すること自体がもうおかしいと思います。皆さん結構、片貝委員も言われましたし、目標数値についてはもう一度見直ししていただければいいかなと思います。

3番目は、トータルに見ていて、この10年後の将来像と最後に出てきた人口減少対策、これは大変いい表でなかったかなと思います。大事な人口減少対策が参考とされても困るので、この参考が一番よかったという意見もあるくらいですから、これはもっとうまい具合に使っていただければいいのではないかなと思います。

皆さんには長時間にわたって貴重な御意見をいただきました。本当にありがとうございます。まだまだ言い足りなかったことはたくさんあるとは思いますが、基本的に賛成の趣旨が多かったかなと、大筋については賛成の意見が多かったのではないかなと感じておりますので、本件につきましてはこの方針で進めていき、そして、今日頂いた御意見については、もう一度事務局、それから齋藤会長職務代理者とも話をして、パブリックコメントまで持っていくということで御一任いただきたいと思います。よろしいでしょうか。

皆さん深く納得していただきましたので、これで進めたいと思います。ありがとうございました。

計画の周知につきましても、併せて御意見をいただきました。これについても、何といっても県民に分かりやすく、特に若い人にも分かりやすく周知いただきたい、未来共創セッションで皆さんの意見を聞いてきたということもありますので。時間をかけてつくって終わりでは本当はおかしいのであって、つくったらこれを皆さんに一生懸命PRしなければいけないと。こちらが主眼でありまして、サーロインの法則ではありませんが、最後のところが大事だということは皆さんも事務局も言っておられますので、もう一手間、二手間かけてPRしていただきたいと思います。

そろそろ予定の時間になりましたので、本日の審議会につきましてはここで終わりたいと思います。

では、これまでの御発言、御意見に対しまして、新田知事からコメントをいただければと思います。

【新田知事】

皆さん、ありがとうございました。本当に貴重な御意見をそれぞれの御立場からいただけたと思って感謝申し上げます。

素案に対していろいろな御意見もいただきました。現行の計画は10年のもので、かつ本当に詳細な毎年やるべき事業のことまで載っています。今回の我々がつくろうという計画はそこまでは書かず、政策の方向性は載せて、あとは毎年度の仕事にしていこうという基本的な考え方で今策定に当たっているところでございます。

そうはいいながら、全くこの施策を書かないのもどうかという議論が内部でありまして、先ほど来お取り上げいただいております素案の53ページにありますこの参考というものを入れ、特に人口減少対策、今回、現行計画を3年残して新しい計画をつくろうと決断しました最大のインパクトは、やはりこの人口のことです。これについては昨年度もその前もかなり集中的に議論をしてまいりました。ですので、この人口減少の対策について、参考という形で最後に入れさせていただきました。それが皆さん結構御評価いただいたということですが、その他のことについては先ほど申し上げたように、具体的な事業には踏み込んでおりません。それについては、今後は毎年度の仕事として進めさせていただければと思います。

周知のことは、これも我々はある意味で大変苦手な分野で、厳しい御意見もいただきました。しっかりと対応させていただきたいと思います。これまでも、我々公務員は結構真面目なものですから、いい仕事をすれば県民の皆さんは分かってくださるだろうという考え方ができたきらいがあるのですけれども、そんなことではないと。やはり世の中はいくらいいことをやっても、いい政策をつくっても、知っていただかなければ全く意味がないと言ってもいい、そんなことを今庁内では進めておりまして、それが先ほど麦野会長が少し触れられたサーロインの法則というものでありまして、3、6、1でサーロインなのですが、最初の政策をつくるコスト、これはお金も、それからマンパワーも含めてですが、コストには3をかけようと、そして、それに倍する6のコストを広報や周知に使うという、そういうことで今進めているのですが、ようやく少しずつそれが変わり始めたということです。引き続き、まだまだ進行中ですが、しっかりと今回のこの総合計画についても、成案ができた暁には周知に努めていきたいと思います。御意見もいろいろとありがとうございました。

最後になりますが、先ほど藤野委員から、私どもの成長戦略会議委員の一人でもあります安宅和人さんの最新の著作、『風の谷』という希望』という本について御言及をいただきました。これは100年、200年の話です。私どもは基本的に単年度でやっていて、それからまた私の任期というものも4年間の任期です。県議会議員の皆様も4年間の任期です。そのような枠組みの中で、100年の政策を考える、100年の未来を考えるというのは、なかなかそこまで県民の皆様が辛抱強く待っていただけるかどうか分かりませんが、でも大切なのは、この『風の谷』という希望』に書いてあるような視点は絶対に我々は捨ててはいけないということだと思っています。単年度の仕事、4年ごとの仕事に、現実の枠組みはそうなのですが、でも常に視点はこの100年、200年残すに値する富山県をどうやってつくっていくか、そのような視点は持ち続けてまいりたいと思っています。

その本の中には、今の日本の、また富山県のほとんどの課題が散りばめられています。それも事例つき、データつき、写真つきで散りばめられています。時には頭が痛くなるようなこともありますけれども、その課題を克服した先に、100年、200年後にまだ残る富山県が残っているのだということを、まさに希望を持ちながら日々の仕事に取り組んでいきたいと改めて思わせてくれる本でございます。

そして、今は人口減少対策、先ほどある程度の一定の御評価をいただいたところなので

すけれども、これはもう全国でやっている話です。我々の特徴も少しは出しておりますが、基本的に全ての都道府県が、全ての知事が、全ての公務員がこのことについて取り組んできましたし、今も取り組んでいますし、今後も取り組んでいきます。でも、トータルで日本の人口自体が減っていく中で、ゼロサムどころかマイナスサムの中で、またそれぞれがこういうことを考えているわけであります。

でも、私はいつかどこかが抜け出せるのではないかと考えています。富山県がこの人口減少社会から抜け出せる1番になるべく、今回のこの総合計画もしっかりと考えながら、そして、できた暁には実行しながら、この状況から抜ける富山県を目指して頑張ってもらいたいと思いますので、どうか引き続き皆様の御協力、またお知恵をお貸しいただきたい、そのようなことをお願いして、最後の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

6 閉会